

報告者：久木留 毅（文学部教授）

## ■ラフバラ大学研究拠点活動報告

No.11

8月2日(金)

- ナショナル・クリケット・パフォーマンスセンター訪問  
英国における TID(タレント発掘事業) 調査の一環としてナショナル・クリケット・パフォーマンスセンターを訪問。担当者不在であったが、各スタッフと意見交換し今後のミーティングについて意見交換を実施した。



8月5日(月)

- 英国自転車連盟とのミーティングおよび視察  
(独)日本スポーツ振興センター情報国際部アドバイザーの肩書きを活用して、UK Sport のサポートにより英国自転車連盟とミーティングを実施した(マンチェスター/ベロドローム)。Brian Cookson 会長自らプレゼンテーションを実施して頂き、大枠について理解することができた。さらに、TID、指導者養成等に関するプレゼンテーションを聞き、その後、館内を視察した。多くの有益な情報を得ることができた。



8月6日(火)

- World Academy of Sport とのミーティング  
マンチェスターの World Academy of Sport を訪問し、各 IF、NF、チームおよび選手個人等に提供しているプログラム内容について説明と意見交換を実施した。私からは、昨今の日本スポーツ界の構造について説明を行った。先方より紹介されたプログラムの内容は、精査を行った上で日本国内の地域において展開している TID 関係の事業に情報提供できる可能性が考えられた。



8月7日(水)

- 日本の指導者とのコミュニケーション(第1回)。  
標記の内容について、柔道競技の塚田真希氏(アテネオリンピック金メダリスト)と海外研修に関するコミュニケーションを実施した。これまでの実施内容を含めて忌憚の無い本音を多く聞くことができた。  
翌日、全日本柔道連盟の田辺陽子理事がラフバラ大学 JSC 政策情報研究拠点センターに来訪。今後の英国柔道連盟との関係を含めて情報交換を実施した。英国柔道連盟教育担当の Joyce Heron (Education Training Manager) 同席。その後の変化に伴い建設された場所等を案内した。

報告者：久木留 毅（文学部教授）

8月26日(月)

■ 田辺さんとのミーティング(英国指導者養成について)

英国柔道連盟の指導者養成について、田辺氏と情報交換を実施した。さらに、英国柔道連盟が求める TID 情報について、オープン情報を提供することとした。

8月27日(火)

■ イングランドクリケット連盟タレントテスト視察(ラフバラ大学内)



11歳～12歳、13歳～14歳、15歳～16歳を対象としたタレントテストを視察。各カテゴリーには、約80名～100名が参加し、テストとワークショップ形式で選考が行われる。毎年新学期(秋季)



が始まるこの時期に実施されている。

■ 英国柔道連盟にて TID に関する情報提供



英国柔道連盟(ラフバラ)を訪問し、TID について情報提供とディスカッションを実施した。英国柔道連盟では、今年の11月から年3回の予定でTIDのためのテストを実施していく予定である。内容から、競技転向を主目的としたTIDであることが理解できた。さらに、詳細な情報提供を求めているので、この点については今後も日本としてサポート出来る様に努めていきたい。

8月31日(土)

■ The UK Strength & Conditioning Association's 9th Annual conference 視察

University of Nottinghamにて開催されたカンファレンス(UKSCA)に参加した。Scotland Institute of Sportのスタッフと知り合い、10月20日(日)前後に視察が出来る事となった。

■ まとめ

英国に来て5ヶ月が過ぎた。この間、ラフバラ大学関係者とのネットワークについては、ミーティングおよび視察を設定できるまで構築できてきた。9月後半の文部科学省関係のビッグプロジェクトについても準備を進めていきたい。

さらに、英国柔道連盟、Scotland Institute of Sportとの関係についても新たなネットワークを構築出来る様に努めたい。